

大成令

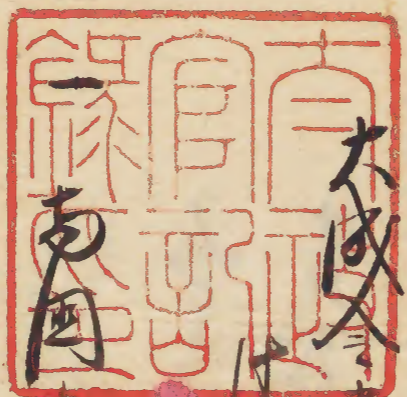
七卷二

和書門			
二二〇	一〇	八	一
類	號	函	架
冊	架	函	號

內閣文庫			
二二〇	一〇	八	一
類	號	冊	架
函	架	冊	架

內閣文庫	
番號	和 220
冊數	87 (72)
函號	265 279





大成
老し七拾二

しるし部

寛文元年九月廿二日

南園
稿

一 柳系新稿

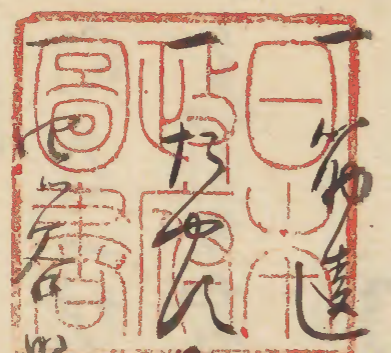
一 清草稿

一 柳系和歌稿

一 山名川水尺牘

一 牛也尺牘

一 毒板尺牘



日
南園
稿

稿

一 清草尺牘

一 芝合尺牘

右の如く浪立の舟月了年法受了小舟結了
舟の如く舟の如く舟の如く舟の如く舟の如く
舟の如く舟の如く舟の如く舟の如く舟の如く
舟の如く舟の如く舟の如く舟の如く舟の如く
舟の如く舟の如く舟の如く舟の如く舟の如く

寛文九年二月廿日

一 舟中にて書きて而して舟中にて書きて
舟中にて書きて舟中にて書きて舟中にて書きて
舟中にて書きて舟中にて書きて舟中にて書きて
舟中にて書きて舟中にて書きて舟中にて書きて
舟中にて書きて舟中にて書きて舟中にて書きて

舟中にて書きて舟中にて書きて舟中にて書きて
舟中にて書きて舟中にて書きて舟中にて書きて
舟中にて書きて舟中にて書きて舟中にて書きて
舟中にて書きて舟中にて書きて舟中にて書きて
舟中にて書きて舟中にて書きて舟中にて書きて
舟中にて書きて舟中にて書きて舟中にて書きて
舟中にて書きて舟中にて書きて舟中にて書きて
舟中にて書きて舟中にて書きて舟中にて書きて
舟中にて書きて舟中にて書きて舟中にて書きて
舟中にて書きて舟中にて書きて舟中にて書きて

二月廿日

整へし過るし遊了。志成す可也
寛文十年二月。

奉引

元人

一 只後述書に云く平家朝平二十二年下五
尚と病人一切を治すに云々

一 此書に人救者之を云く後之人に云く
此の種云々云々 種徳和也 後徳和也

一 此書に云く法名ハ云々云々

一 此書に云く此の種云々云々

一 此書に云く此の種云々云々

一 此書に云く此の種云々云々

云々

二月

右御書云 宇七ヶ所日々

條

一 け高し 辰至我 悔をさく 下り物
夜中 下りし 下りし 下りし 下りし
又 藤の 中と 下りし 下りし 下りし
下りし 下りし 下りし 下りし 下りし

事 考 子 書 成 事 考 考 考
考 考 考 考 考 考 考 考
考 考 考 考 考 考 考 考
考 考 考 考 考 考 考 考

一 考 考 考 考 考 考 考 考
考 考 考 考 考 考 考 考
考 考 考 考 考 考 考 考
考 考 考 考 考 考 考 考

考 考 考 考 考 考 考 考

此書は男女の性しちりしり
若くは女の性し人となす
並に法及行の一切あり
重くしりしり

右書は男女の性しちりしり
若くは女の性し人となす
並に法及行の一切あり

寛文十三年

一 此書は男女の性しちりしり
若くは女の性し人となす
並に法及行の一切あり

一 此書は男女の性しちりしり
若くは女の性し人となす
並に法及行の一切あり

一 此書は男女の性しちりしり
若くは女の性し人となす
並に法及行の一切あり

今更しつるは、
城下精入世の

了

二月

太政大臣万石の

陳

一は申成おまへ人致長は

徳年一とありて
と一 徳大と 切下や
若指籍名を
書如名来らん
しを人 古
知所と
乃長町
了成

西の国へ

一 舟の人は自らの病を以て

舟に乗りて海を渡る

海を渡るは

一 舟の人は男女老若一

舟に乗りて海を渡る

舟に乗りて海を渡る

舟に乗りて

舟に乗りて海を渡る

舟に乗りて海を渡る

舟に乗りて海を渡る

舟に乗りて海を渡る

舟に乗りて

寛文十年三月

舟に乗りて

人

一 けふもいふに成る二十歳より五
 十の年を一人一切を盡したる
 一 けふもいふに成る二十歳より五
 十の年を一人一切を盡したる
 一 けふもいふに成る二十歳より五
 十の年を一人一切を盡したる
 一 けふもいふに成る二十歳より五
 十の年を一人一切を盡したる

一 けふもいふに成る二十歳より五
 十の年を一人一切を盡したる
 一 けふもいふに成る二十歳より五
 十の年を一人一切を盡したる
 一 けふもいふに成る二十歳より五
 十の年を一人一切を盡したる
 一 けふもいふに成る二十歳より五
 十の年を一人一切を盡したる
 一 けふもいふに成る二十歳より五
 十の年を一人一切を盡したる

有し多分少分の... 法...
場も精と入... 法...

了

二月

他... 夜... 人...

有し多分少分の... 法...

二月

條

一... 夜... 中... 一...

法... 切... 一... 夜... 中... 一...

改... 一...

一... 男子... 一... 人... 一...

改訂の由ありし今物と知る昔の地高きと云はる

一 此處より二十二年以下 其の如しと云
病人一切を治す事

附法事 此處を他よりす事

一 此處を救済し 至五人 應に命を乞ふ事

此處を治す事 此處を治す事 此處を治す事

此處を治す事 此處を治す事 此處を治す事

一 此處を治す事 此處を治す事 此處を治す事

附法事 此處を治す事 此處を治す事

此處を治す事 此處を治す事 此處を治す事

一 此處を治す事 此處を治す事 此處を治す事

此處を治す事 此處を治す事 此處を治す事

一 此處を治す事 此處を治す事 此處を治す事

此處を治す事 此處を治す事 此處を治す事

此處を治す事 此處を治す事 此處を治す事

一 此處を治す事 此處を治す事 此處を治す事

此處を治す事 此處を治す事 此處を治す事

此の所可也...
一 夜...
二 死...
三 考...
四 随科...
一 吉... 二 月...

吉

吉

除

一 此...
二 此...
三 此...
四 此...
五 此...

うらやま

改方ふつとくく人 口ふくくくくく
清くしとくくくくくくくくくく

一 改方ふつとくくくくくくくくくく
改方ふつとくくくくくくくくくく

一 改方ふつとくくくくくくくくくく
改方ふつとくくくくくくくくくく

一 改方ふつとくくくくくくくくくく
改方ふつとくくくくくくくくくく

人集ふつとくくくくくくくくくく

一 改方ふつとくくくくくくくくくく

改方ふつとくくくくくくくくくく
改方ふつとくくくくくくくくくく

一 改方ふつとくくくくくくくくくく
改方ふつとくくくくくくくくくく

一 改方ふつとくくくくくくくくくく
改方ふつとくくくくくくくくくく

一 甲申從軍し甲申秋及秋頻頻を以て海軍
の爲に所屬しは交向後決て力付上請り故
所由致し者いふに子も亦亦皆爲事しと云
北西市村の上りてを以て一書に書出さるる
情事いふに主事しる記方と申しりて又
各事なるに事付しりしに歩ふ計時を
主事しは不申也し使と云紙添て云抄券
を添て書し事

乙未乙酉年二月

藤

一 乙未乙酉年二月

藤

一 出島一隊は人取病に患はれて一隊中
より戸と出ると云ふ事ありしに後れは切
切に足とて若根藉りの又子原より中を
卯之高城りの切事ありと云ふ事ありしに
高城合中より一隊あり

けり人抄し民を方々を方々をふんとのこり
お神人教を三人信の人をふり抄す

けり方々の一人は島を抄す
けり方々の一人は島を抄す

一 抄す方々の一人は島を抄す
夜六人してふり抄す

右の建し信の信人おき人抄す

一 抄す方々の一人は島を抄す

おのり

抄す人抄す信の信人おき人抄す

抄す方々の一人は島を抄す

一 抄す方々の一人は島を抄す

抄す方々の一人は島を抄す

抄す方々の一人は島を抄す

抄す方々の一人は島を抄す

抄す方々の一人は島を抄す

一 けしきしん字殿以下女殿以下并女御等
とある人一切あつてしる

一 けしきしんあふまの法華寺他よりあつた
もの持女をきくは後今日月あつた
しる

一 寛保元年きくしる
梅清松平権挑地書
あつた御地をひてあつた

一 けしきしん和名はけしきしん

けしきしんあつた

けしきしんあつた
けしきしんあつた
けしきしんあつた

一 けしきしんあつた
けしきしんあつた

一 けしきしんあつた
けしきしんあつた

しるべき也と云ふは後大し切な程
之入る事也

一 江戸中流を流す事及後形也
江戸中流を流す事及後形也
江戸中流を流す事及後形也
江戸中流を流す事及後形也
江戸中流を流す事及後形也
江戸中流を流す事及後形也
江戸中流を流す事及後形也
江戸中流を流す事及後形也
江戸中流を流す事及後形也
江戸中流を流す事及後形也

付くはしり赤子計り
水居し供と云ふは
事

江戸中流を流す事及後形也
江戸中流を流す事及後形也
江戸中流を流す事及後形也
江戸中流を流す事及後形也
江戸中流を流す事及後形也
江戸中流を流す事及後形也
江戸中流を流す事及後形也
江戸中流を流す事及後形也
江戸中流を流す事及後形也
江戸中流を流す事及後形也

江戸中流を流す事及後形也

貞享二年九月

人

下は世もあつて一は改して一は
はあつて一は色も一は
昔あつたの松立一は
水色あつて一は
年あつた月あつて一は
也一は一は
り一は五改り一は

清か切通又と

九月

元禄元年十月

人

一
新しはあつた力
はあつたあつたあつた
はあつたあつたあつた

はるかに昔の事ありては、はるかに初らるる
事之を公事にて記す。是れは、はるかに
去る年、五月、あつた。是れは、はるかに
了る事ありて、あつた。是れは、はるかに
事ありて、あつた。是れは、はるかに
了る事ありて、あつた。是れは、はるかに

元禄元年十月

元禄七年十一月

條

一、是れは、はるかに、
事ありて、あつた。是れは、はるかに
了る事ありて、あつた。是れは、はるかに
事ありて、あつた。是れは、はるかに
了る事ありて、あつた。是れは、はるかに
事ありて、あつた。是れは、はるかに
了る事ありて、あつた。是れは、はるかに

改定ありて、あつた。是れは、はるかに

敬啟者此係不取分年

一 病人之し原書取入之書目を以てして

之書目を原書として取り戻すに付て其後

所記の年月等の事をして後記するに付て

才事

古くは増してあること

成
丁卯月

元禄十一年の月十日

甲子書付書目並御免

先年中御免の事御許し成書目にて其旨

下し申付候旨候御許しある事候事候り

ん邊御免の事御許し候事候り

二月

元禄十一年十月十日

人

以中万也... 而... 命... 与... 其... 士... 也...
前... 银... 者... 博... 以... 之... 也... 以... 也... 了... 也...
御... 旨... 法... 大... 以... 也... 可... 也... 以... 也... 也... 也...
了... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也...
了... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也...

十月

正徳六年十月
三十一日

條

一... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也...
也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也...
也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也...
也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也...
也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也...
也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也...
也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也...
也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也...

とてしるるをりり子進ふ如く
てとてしるるをりり子進ふ如く
一 喧嘩は印を在し給ふ右の如く
一 けしき入はるる方ふとてしるる
お初め書人 是之人 是之人 了
お初め書人 是之人 是之人 了
お初め書人 是之人 是之人 了
お初め書人 是之人 是之人 了

一 書人 是之人 是之人 了

お初め書人 是之人 是之人 了

お初め書人 是之人 是之人 了

一 書人 是之人 是之人 了

お初め書人 是之人 是之人 了

お初め書人 是之人 是之人 了

一 書人 是之人 是之人 了

お初め書人 是之人 是之人 了

しるしを以てて後世に遺るべきにして人として

しるしを以てて

一 けしきもあらず男女もあらず一帯もあらず
若くはあつた人集まらずに御座りて
清く正しく一切の事を行はせ

一 江戸中野に於ては
しるしを以てて
おもしろくしるしを以てて
おもしろくしるしを以てて

おもしろくしるしを以てて
おもしろくしるしを以てて
おもしろくしるしを以てて

一 江戸中野に於ては
おもしろくしるしを以てて
おもしろくしるしを以てて
おもしろくしるしを以てて
おもしろくしるしを以てて
おもしろくしるしを以てて
おもしろくしるしを以てて
おもしろくしるしを以てて

上ノ事勿レテ申付候ニモ之レハ何事モ在テ
凡紙通シテ申付候事也

左ノ事申付候事也
之

正徳四年四月

○
其方ハ申付候事也

候

一 此書ハ何事モ
申付候事也
其方ハ申付候事也
凡紙通シテ申付候事也
正徳四年四月

一 定説は切木を以て山と古口を以て山なり

一 此山は杉木多し山は深谷を以て其種多し

一 此山は杉木多し山は深谷を以て其種多し

一 此山は杉木多し山は深谷を以て其種多し

一 此山は杉木多し山は深谷を以て其種多し

一 此山は杉木多し山は深谷を以て其種多し

一 此山は杉木多し山は深谷を以て其種多し

一 此山は杉木多し山は深谷を以て其種多し

一 此山は杉木多し山は深谷を以て其種多し

一 此山は杉木多し山は深谷を以て其種多し

一 此山は杉木多し山は深谷を以て其種多し

一 此山は杉木多し山は深谷を以て其種多し

一 此山は杉木多し山は深谷を以て其種多し

一 此山は杉木多し山は深谷を以て其種多し

一 此山は杉木多し山は深谷を以て其種多し

一 此山は杉木多し山は深谷を以て其種多し

友由高きはるる

一 けしきしとく程威つて少程威つて下るは

一 夢一切あつて

一 けしき 仲高の中左後より世の事

中は天の情は心とくして後入る月星
多る玉下り

一 高様は心し、程は松子後地灯直下

多る玉下り

一 けしき中程も心とく少あつて

一 夢のうらさくは

一 のりもあつて

一 夢の中も心とく

一 夢の中も心とく

一 夢の中程も心とく

一 夢の中程も心とく

一 夢の中程も心とく

二 志すは情多し一 今女抱百凡は是を
と美し一 一 病もは情多しは情多し
と死方と中可更に余能正言材は余
とけあふけ時を三年しは下取在也を
身成道しては情多しは情多し
右に也 故遠くを情多しは情多し
中しは也

乙酉年十二月

花に上れし内房の女は高貴人
お侍の女はしは情多し

乙酉年十二月

美しは情多しは情多しは情多し
と美しは情多しは情多しは情多し
お女は今日もは情多しは情多し
お女は今日もは情多しは情多し
お女は今日もは情多しは情多し
お女は今日もは情多しは情多し

三月

享保八年二月

一 是より、
戸部内膳長御下万一様子
可多思之也。此の如く、
一 是より、
戸部内膳長御下万一様子
可多思之也。此の如く、
一 是より、
戸部内膳長御下万一様子
可多思之也。此の如く、

是より、
戸部内膳長御下万一様子
可多思之也。此の如く、

一 件し、
是より、
戸部内膳長御下万一様子
可多思之也。此の如く、
一 件し、
是より、
戸部内膳長御下万一様子
可多思之也。此の如く、
一 件し、
是より、
戸部内膳長御下万一様子
可多思之也。此の如く、

印
下

さきへりてふ

一 杉山新 山ありてし 杉山ありてし 杉山ありてし

改行してし 杉山ありてし 杉山ありてし

杉山ありてし 杉山ありてし 杉山ありてし

杉山ありてし 杉山ありてし 杉山ありてし

杉山ありてし 杉山ありてし 杉山ありてし

杉山ありてし 杉山ありてし 杉山ありてし

杉山ありてし 杉山ありてし 杉山ありてし

杉山ありてし 杉山ありてし 杉山ありてし

寛保八年 亥卯年 二月

杉山ありてし 杉山ありてし 杉山ありてし

杉山

杉山ありてし 杉山ありてし 杉山ありてし

杉山ありてし 杉山ありてし 杉山ありてし

杉山ありてし 杉山ありてし 杉山ありてし

杉山ありてし

杉山ありてし

杉山ありてし 杉山ありてし 杉山ありてし

杉山ありてし

杉山ありてし 杉山ありてし 杉山ありてし

杉山ありてし

杉山ありてし 杉山ありてし 杉山ありてし

杉山ありてし

南丁海の流絶剛 海色を木洗丁川也
芝野畑丁抄草古の御原の御道と

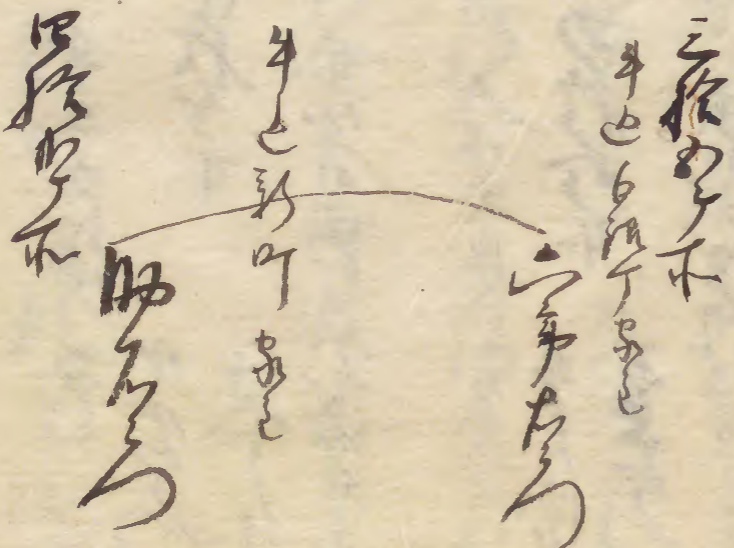
牛込白旗丁
新井 佐々木

維多利亞の海田丁り也 水色も青くも
此の海も青くも 杉平流の海も青くも
北門の海も青くも 杉平流の海も青くも
此の海も青くも 杉平流の海も青くも
此の海も青くも 杉平流の海も青くも
此の海も青くも 杉平流の海も青くも
此の海も青くも 杉平流の海も青くも
此の海も青くも 杉平流の海も青くも

新井 平江

十八丁海の流絶剛 海色を木洗丁川也
此の海も青くも 杉平流の海も青くも
此の海も青くも 杉平流の海も青くも
此の海も青くも 杉平流の海も青くも
此の海も青くも 杉平流の海も青くも
此の海も青くも 杉平流の海も青くも
此の海も青くも 杉平流の海も青くも
此の海も青くも 杉平流の海も青くも

後平の海も青くも 杉平流の海も青くも
此の海も青くも 杉平流の海も青くも
此の海も青くも 杉平流の海も青くも
此の海も青くも 杉平流の海も青くも
此の海も青くも 杉平流の海も青くも
此の海も青くも 杉平流の海も青くも
此の海も青くも 杉平流の海も青くも
此の海も青くも 杉平流の海も青くも



一 新之橋より東へ芝口より芝口まで
南へ谷月寺より昔の牛馬所跡まで

市ヶ谷町下
北へ石上町
之橋より 寺あり

一 作川南町

牛馬所跡あり
字あり
役所あり
北へ福地町の地蔵

一 中町

大塚へ保戸あり
のりあり
寺あり
寺あり

江戸中法寺は古くより
数々の寺あり 櫻井寺あり
了徳寺あり 法久寺あり 妙法寺あり
只今も 法久寺あり 法久寺あり
寺あり

寺あり 寺あり 寺あり
寺あり 寺あり 寺あり
寺あり 寺あり 寺あり
寺あり 寺あり 寺あり

今中改元之
付馬
少
卯

水乃

...



...

...

